

セルビアに再びコウノトリを



コウノトリの野生復帰を目指すボニャビツツア自然公園（県環境研究センター提供）

国の特別天然記念物、コウノトリの野生復帰を豊岡市で成功させた県は、8千羽以上離れた東欧のセルビアで、ヨーロッパコウノトリ（シュバシコウ）の生息環境を再生させるプロジェクトに乗り出します。現地ではコソボ紛争の爪痕が、今も環境汚染を引き起こしております。県は地元機関と連携しつつ、海外でもコウノトリが舞う自然をよみがえらせたいと願っている。

プロジェクトは今月からの3カ年計画で、首都ベオグラードに隣接したパンチャエボ市で進められる。同市では1999年のコソボ紛争に伴う空

爆で化学工場が破壊され、毒性の強い物質が流出。土壤や地下水が汚染され市民生活に深刻な影響をもたらした。

紛争終結後の2014年から3年間、県環境研究センターではJICA（国際協力機構）とともに、現地の残留性有機汚染物質の分析を手がける人材育成を進めた。こうした縁を背景に県は今回、かつて多くのコウノトリが羽を休めたパンチャエボ市内のボニャビツツア自然公園（約194ha）に着目。コウノトリの飛来が激減した環境を改善させる取り組みを始める。

同センターの中野武参与は「産官学民協働で知恵を出し合い、現地の若者らが自立て環境改善に取り組めるようになりたい」。郷公園主任研究員で県立大の出口智広准教授は「現地を観察した上で、これまでの実績をもとにした計画を立案したい」と話している。（河合洋成）

県、地元機関と連携



▶ 豊岡支局
〒668-0025
豊岡市幸町13-20
TEL0796 (22) 6151
FAX0796 (29) 2338

購読のお申し込みは
0120 (34) 3733
広告のお問い合わせは
神戸・阪神・淡路地域
078 (371) 0112
但馬・丹波・播州地域
079 (234) 8590

の香りに包まれて
須磨離宮公園 梅の花見頃

淡路瓦の生産が盛んな淡路島。「日本三大瓦産地の一つ」と紹介すると、「他の二つはどこか」とよく聞かれます。一つは愛知県高浜市を中心で生産される三州瓦、もう一つが島根県の石州瓦です。その高浜市の「やきもの里かわら美術館」で17日、「みんなのオリオン座コンサート」が開催されました。毎年冬の時期に開かれる市民参加型のコンサートなのです。が、今回の目玉は瓦を楽器とする「瓦の音楽」。私が理事長を務めるNPO法人淡路島アートセンターが平成25年から、音楽家の野村誠さん、やぶさみこさんと一緒に展開してきた事業です。

私たちは淡路島の幼稚園や小学校、公民館、商店街などで「瓦の音楽コンサート」をはじめ、インドネシアやいたリアとの国際交流、尼崎城の完成記念演奏などで瓦の音樂を行ってきました。そしてついに三州瓦の産地に登場です。

コンサートの開催に合わせ、地元業者から三州瓦の提供を受けて高浜市内8カ所に「瓦の樂器」を自由に演奏できるステーションを設置。中学校の美術部にポスター作成